

会 議 録

会議の名称	令和6年度第3回上尾市図書館協議会	
開催日時	令和7年2月17日（月）午後1時30分から午後3時45分まで	
開催場所	上尾市図書館本館2階 集会室	
議長(委員長)氏名	代島常造	
出席者(委員)氏名	須賀聡、近藤博昭、岸清俊、小木曾久美子、加藤寛子、酒井剛志、代島常造、清水松代、高村裕美、村上篤太郎	
欠席者(委員)氏名	石田賢一、大谷内久美子	
事務局(庶務担当)	山内館長、正木副主幹、久我副主幹、中島主査、高橋主査、吉川主査、米川主任、鈴木主任、岩田主任、岡田主任	
会 議 事 項	1 議 題	2 会 議 結 果
	(1) 報告 ①令和6年度第3次上尾市図書館サービス計画等の進捗状況について ②図書館本館の更新の進捗状況について (2) 議題 ①第3次上尾市図書館サービス計画の次年度事業計画概要(案)について ②利用者モニタリング調査の実施について ③第4次上尾市図書館サービス計画および第4次上尾市子どもの読書活動推進計画の策定について	別紙「議事の経過」のとおり
議 事 の 経 過	別紙「議事の経過」のとおり	傍聴者数 3名
会 議 資 料	資料1 令和6年度第3次上尾市図書館サービス計画等の進捗状況について 資料2 図書館本館の更新の進捗状況について 資料3 第3次上尾市図書館サービス計画の次年度事業計画概要(案) 資料4 利用者モニタリング調査の実施について 資料5 第4次上尾市図書館サービス計画骨子案 資料6 第4次上尾市子どもの読書活動推進計画の策定について	
議事のでん末・概要に相違なきことを証するため、ここに署名する。 令和 年 月 日 <div style="text-align: right; margin-top: 10px;"> 令和7年3月22日署名済み 議長の署名 _____ </div>		

議事の経過

発言者	議題・発言内容・決定事項
事務局	報告① 令和6年度第3次上尾市図書館サービス計画等の進捗状況について
議長	報告①について意見、質問はあるか。
A委員	2つ目の項目、読書が広がる本のセットについて、この資料には記載されていないが、上平公民館に設置したのか。
事務局	はい。
議長	2 ページ目 (7) の市内小学校の図書館見学は何年生が対象なのか。参加者は学年全員なのか、希望者なのか。
事務局	学年は2年生で、学年全員が対象である。小学校のカリキュラム、生活科の“まち探検”として実施される。
議長	本議題については、以上でいいか。 (異論なし)
事務局	報告② 図書館本館の更新の進捗状況について
	報告②について意見、質問はあるか。
B委員	丸広の方が結構スピードが速く、2025年の秋にリニューアル完成で、今現在、地下を改装しているようである。結構速いスピードで進んでいるようだが、図書館が入るタイミングはどうなっているのか。
事務局	丸広百貨店側では、百貨店側としてリニューアルのスケジュールが着々と進められていると認識している。上尾市図書館が6階に設置することについては丸広とは異なるスケジュール感で調整を進めている。
C委員	(2) 仮本館の整備において用途変更が必要で、今、協議中とあるが、いつどのように工事していくのか、目途を知りたい。
事務局	実はこの用途変更というのが大きなハードルの一つになっている。図書館職員で丸広側と工事に向けての設計協議等を進めているところであるが、技術的な知識が不足しているため施設課の職員を巻き込んで業務を進めている。一方、丸広側も店舗に公共施設を入れるという実績がなく、業務が難航しているのが現状である。令和7年度予算計上にも影響するが、令和7年度に設計業務、令和8年度に工事着工に向け進めている。
議題	本議題については、以上でよいか。 (異論無し)

事務局 議長	<p>議題① 第4次上尾市図書館サービス計画の策定について</p> <p>議題①について意見、質問はあるか。</p>
C委員	<p>基本方針 4-2「運営」(1)で、来館者を増やすという目標はいいと思うが、一方、非来館対応という視点で、例えば図書館のウェブサイトへのアクセス数も来館者と同じように扱い、バーチャルでの上尾図書館の利用数もアピールしたほうがいい。アナログの人間だけを相手にするのは少し足りないと思う。</p> <p>次の(2)の図書館システムの計画について、図書館システムと市内の学校図書館のシステムが同じものであれば、現在、学校ではGIGAスクールで児童生徒が一人ずつIDパスワードを持っているので、このIDで図書館システムも使えるようにすることはできないか。それにより児童生徒が電子図書に対するアクセスの機会が広がるのではないか。IDやパスワードはセキュリティ上も踏まえることができるだけ少ないほうがよく、このあたりの連携については検討しているのか、あるいは図書館側で検討しているがまだ学校側とはそこまでの話が整理されていないのか、どのような状況か。</p>
事務局	<p>まず、ウェブのアクセス数の成果を上げてはどうかという提案について、フェイスブックのアクセス数は把握できるが、上尾市図書館のホームページのアクセス数は広報広聴課の担当に確認が必要である。来館者だけではなく、上尾市電子図書館やホームページのアクセス数は、市民が関心を寄せていることの現れになると認識しているので今後、その把握について検討、調整していきたい。</p> <p>2つ目の学校図書館との連携については、この後の読書プランの議題で説明する。</p>
D委員	<p>基本方針 3.3の「青少年サービス」(2)駅前分館の青少年コーナーの充実とあげられているが、この場所に特化したものなのか。</p>
事務局	<p>青少年コーナーは本館、上尾駅前分館、大石分館に設置している。上尾駅前分館は昨年度設置したばかりであるが、駅前という利点を考慮し、通学の高校生や大学生をターゲットにしており、気軽に立ち寄れるのではないかとということで重点的にあげている。</p>
D委員	<p>とすると、他の分館も地域ごとにそれぞれのターゲットがあるのか。</p>
事務局	<p>各館のターゲットはないが、本館は市内全域から来ることを想定して包括的に中学生もターゲットとした青少年コーナーを設置している。これに対し、駅前分館の青少年コーナーは、高校生を主にターゲットとしている。大石分館は本館に順ずる形で設置している。</p>
B委員	<p>基本方針 1.1「郷土資料のデジタル化」については、一部デジタル化を推進していることは非常にありがたい。全部公開できるのではないかと思うが、物によっては少ししか見られないという難点がある。郷土資料についてはデジタル化を推進しているが、図書館で所蔵している郷土資料以外の図書も電子図書館に上げることはできるのか。</p>
事務局	<p>著作権の関係で所蔵している本を何でも電子図書館に上げることはできないと理解している。上尾市電子図書館の書籍は著作権をクリアした著作権フリーの青空文庫やその他、事業者から購入しているもので構成されている。事業者から購入したものは買い取り型や2年間または52回の利用設定といった様々なタイ</p>

事務局	<p>プがあり、蔵書数を増やすことは大変である。定期的に新しい電子書籍情報がカタログで届き、利用者のニーズに合わせて選書している。</p>
B委員	<p>上尾市図書館で所蔵する図書の中に著作権が切れているものはないのか。</p>
事務局	<p>国立国会図書館のアーカイブで網羅されているので、上尾市だけが所蔵する資料とすると郷土資料的なものが多い。郷土資料には個々に著作権があるのでその辺をクリアする必要がある。まず上尾市が制作した資料の電子化を進める予定である。</p>
議長	<p>このことは県の文学館でも話題になるが、例えば作者の死後 70 年経つと著作権が切れるが、そういったものは国立国会図書館で網羅的に電子化しているので、上尾市民は誰でも見られる。国立国会図書館があげているものを上尾市図書館があげるのは重複の仕事になるので、それはやらないという考えでいいか。</p> <p>上尾市しか持っていないものという、郷土資料がほとんどであると思うが、オリジナル資料があれば電子化していくということでもいいか。</p>
事務局	<p>お見込みの通りである。</p>
C委員	<p>基本方針 2.10「多文化サービス」で、上尾市在住の外国人の国籍で一番多いのはどこかについて図書館で情報を持っているのか。その情報に対応する蔵書、選書が行われていると解釈していいか。外国語というのは英語だけではなくてアジアの言語など、母国語の図書があると利用者は嬉しいはずである。私も外国に行ったときに日本語の図書が図書館にあるとすごく落ち着く。このような思いは多分誰しも一緒だろうと思うので、外国語資料の選書について教えて欲しい。</p>
事務局	<p>今、手持ちで国籍別の人口数は把握できないが、毎年市民課に確認し情報収集している。確か中国人が一番多く次いでベトナム人が急激な伸びを見せており、それから韓国が続いている状況である。選書においては中国語やベトナム語の本を検討しているが、ベトナム語の本の収集が難しい。他の自治体の情報を参考に選書していこうと考えている。ベトナム人とか東南アジア系の人口が増えていることは認識しており、何かしら対応が必要であると考えている。</p>
議長	<p>参考までに県立熊谷図書館でも多文化サービスで収集しており、ベトナムの人口が埼玉県内でも急激に増えているので、そういった資料はある。いろいろと調査すると思う。</p> <p>本議題については、以上でよいか。皆様からいただいたご意見を踏まえ、①の概要案を事務局の方で進めてもらうということによろしいか。</p> <p>(異論無し)</p>
事務局	<p>議題② 利用者モニタリング調査の実施について</p>
議長	<p>議題②について意見、質問はあるか。</p>
C委員	<p>資料の「方法」の中で、各館、各室に調査シートと回答箱を設置ということだが、同じ人が何回もやってしまうことを防ぐ対策があるのか。</p>

事務局	正直、対応は難しい。筆跡を確認するぐらい。逆に、回収率をいかに上げるかに焦点を当てており、防ぎようがないと思っている。
C委員	実施にあたっては掲示とかすると思うので、「1人1回」ということを分かりやすく書いておけばそれで通じるのではないかと思う。
議長	本議題については、以上でよいか。皆様からいただいた意見を踏まえ、事務局で進めてもらうということによろしいか。 (異論無し)
事務局 事務局	議題③ 第4次上尾市図書館サービス計画および第4次上尾市子どもの読書活動推進計画の策定について
	【休憩】
議長	議題②について意見、質問はあるか。
C委員	資料5のアンケート概要の中の「図書館全般」のところ、「図書館の利用の有無」について尋ねる中で、来館利用に限定するのと非来館で図書館のウェブサイトなどの利用とで分けて聞いたほうがより現状が分かりやすい。「利用」というだけだとどんな利用かが漠然として分からない。上尾市図書館がたくさん使われていると思ったら実態が違うということになりかねないので、そこを分けたほうがいいと思う。 それから学校図書館とのシステムの件は状況がわかった。図書館職員にお願いしたいのは、積極的に学校とコミュニケーションをとりとにかく図書館側が主導する。学校が知らない事もたくさんあると思うので、どんどん学校側に伝えていけば、総論で反対するところはないと思う。あとはやる気だけの問題である。
事務局	ウェブサイトの利用についての設問については盛り込んでいきたいと考える。
E委員	第4次の計画になると、ICT環境を利用したネットを通じた図書館利用、ウェブで読むとか電子図書であるとか、学校図書館とリンクして、同じシステムを使ってという話も出てきている。そうすると学校で1クラス30人から40人の生徒児童が一斉に自分のChromebookを立ち上げて接続をすると何が起こるか。学校で聞いた話では、3クラス同時に立ち上げたらパンクする。学校とシステムを統一することによってこのような障害が出てきてしまうようなことも考えた上で進めていかないといけない。
A委員	読書パスポート事業は上尾市の活動として素晴らしい事業である。うちの文庫に来た子ども用にかわいらしい妖精のハンコをいただいているので、カスパーシアターを月に1回実施、その他、本の読みみかせ、クリスマス会などのイベントのときにも必ず押すようにしている。これはとてもいいことだと思っている。文庫に来る子は本好きな子が多いのだと思うけれども、読書パスポートのスタンプを楽しみに来る子も中にはいて、その読書パスポートを長期にわたって活用していくことは素晴らしい。
F委員	資料5の市民アンケート概要の中で、市内の18歳以上の3,000人から無作為に抽出するというやり方について、できれば18歳未満の人たちの声も反映できたらいいと思う。学校ともっとコミュニケーションをとることの重要性について

F 委員	意見があったが、中高校生になれば自分の意見とかも言えると思うので、学校を通してもっと広く声を吸い上げてもいいのではないかと思います。また、学校を通してだけでなく、“広報あげお”などに大々的に記事を掲載し QR コードを載せるなどして広く声を求めてもいいのではないかと思います。
事務局	今回の無作為抽出 3,000 人については、18 歳以上という設定をしているが、中学生や小学生については、子どもの読書プランで声を拾いあげる予定である。中高校生の意見や意向、18 歳から 19 歳、または 20 代がどうなのかというところは丁寧に拾い上げていきたいと考えている。利用者モニタリングについては年齢に関係なく紙ベースとウェブでの回答もできるようになっているので、しっかりと周知を図っていく。新しい図書館ができることについては、上半期に市民ワークショップも予定しているので、そちらで丁寧に拾い上げていきたいと考える。
D 委員	資料 5、4 ページ 2.6 の「福祉」と 2.7 の「法律」に「情報の仲介機能を高める」とあるが、どのような意味なのか教えて欲しい。
事務局	「情報の仲介機能」というのは、健康や法律に関することを図書館職員が答えるのではなく、資料を揃えて利用者の必要とする情報を提供することである。レフェラルサービスもこれに当たるが、提供した資料では足りない場合に、より専門的な機関を紹介するというサービスを想定して「仲介機能」と載している。
D 委員	提供された資料を見ても分からないと話すと何か紹介してもらえるとというイメージであるのか。
事務局	図書館のホームページにリンクを貼ることも仲介機能、レフェラルサービスの一つであると考えている。今、一般的に何か調べようとして“Google”などで検索すると、情報が玉石混交、根拠のないものもあるので、図書館サービスとして一定の信用度のあるものを図書館ホームページのリンクで案内して誘導できるよう考えている。
D 委員	資料 6 「読み聞かせのまち上尾」を実現するための 4 つの視点で、基本的には読書をしてもらうことが①から④にあげられていると思うが、これで「読み聞かせのまち上尾」が実現できるのか。
事務局	第 1 次上尾市子どもの読書活動推進計画の策定時、協議会委員からも提言いただき、「読み聞かせのまち上尾」というのがスローガンになった。その当時から「読み聞かせ」は読み聞かせだけなのかと議題になったが、そうではなくターゲットとなっている青少年までの読書環境について、まちをあげて推進していこう、家庭・学校・地域全ての人たちが連携協力して実現していこうということを目標としている。そのスローガンを立ち上げていく中で、この 4 つの視点の②と③というのは、現在の第 3 次の計画ではあまり明言されていなかったが、今後はこれらも推進していかなければ市をあげての読書推進のまちにならないであろうという認識の下、このフレーズになっている。
D 委員	資料 6、6 ページ「4 学校における取組」、「○緊急時等を含む多様な状況における図書への継続的なアクセスを可能とする」の意味を教えて欲しい。
事務局	緊急時というのは災害や有事の時に、そのような場合でも本や情報に常にアクセスできる環境を作っていきましょうということだと理解した。2011 年の東日本大震災後、図書館機能はストップしてしまっただが、社会教育施設の中では一番初めに再開した。

事務局	<p>新型コロナウイルス感染拡大時、学校の臨時休校などにより図書へのアクセスがしにくい状況となったと思うが、その時、学校の読書環境はどうだったのか。</p>
G委員	<p>「アクセス」という表現からすると、ICTの観点なのか、だとするとそのラインは止まるのではないかと考える。現在、学校現場では、授業のコマ数を減らして欲しいとか、朝の活動をなくす方針に進んでおり、朝読書を統一して行うことが難しくなっている。本校では朝読書はなく、出席を取るとすぐ1時間目が始まる。朝の活動が始まる前に落ち着くことを目的に個々に読書することは統一しているが、朝活動と位置づけすることは難しい。また、学校応援団やボランティアによる読み聞かせも、コロナ禍を機会に大分なくなってしまい、復活することが難しい。読み聞かせに携わっている方たちの高齢化によりお願いする機会も減ってきているのが現状である。</p> <p>本校もできるだけ読書パスポートを活用しようとしているが、読む子はすぐ溜まり、活用しない子は全くしない、二極化が起きている。学校評価アンケートに「お子さんはよく読書しますか」という項目で、「よくしている」という回答は残念ながら58%で、読書率を上げていくには家での読書量を増やさないとはいえないと考える。上尾市では児童全員に1人1台タブレットがあてがわれ、今泉小学校ではそれを毎日持ち帰っているの、デジタル化は家で本を読む機会に繋がると期待できる。タブレット、教科書その上図書室の本も持って帰るとなると、子どもたちは重くて嫌がると思う。電子化してタブレットで読むことができると読書率のアップに繋がると思うので、ぜひ整備して欲しい。</p>
H委員	<p>資料6のアンケート用紙で、次年度、当時、小学校3年生のときに読書パスポートを受け取った子どもたちが、20歳のつどいに参加し、それに参加した若者に意見を聞くという内容について、事業に対してのフィードバックとして非常に素晴らしい取り組みである。子どもたちがどのように成長しているかを見ることもできると思うのでぜひ続けて欲しい。</p>
C委員	<p>資料6「読み聞かせのまちあげお」は大変いいスローガンだと思う。この読み聞かせというのをまさに言葉面、狭義の読み聞かせに限定することなく、上尾らしい読み聞かせを考えて欲しい。読み聞かせだけならどこでもやっている。個人的には音読を入れて欲しい。子どもたちの音読は国語でもやっていると思うが、チームワーク、呼吸を合わせることもなり、またしゃべるといことが当然大脳への刺激にもなる。このことは、子どもでやれることは必ずや高齢者にも使える。認知症予防などいいことづくめである。図書館がやることについて、将来的に考えて欲しい。上尾の読み聞かせというのは音読もあるというのを日本中に広めていって欲しい。</p>
事務局	<p>2月に「名作を読む」という朗読会を行った。参加者は高齢者が多かったがアンケート結果を見ると30人中27名の方が読み聞かせか朗読を習っているという方だった。その結果を踏まえ、支援センターでも、例えば学校に朗読者を判読に呼んでいただいて、子どもたちに朗読する機会があればお互いにいいという意見も出たので、ぜひ連携していきたい。</p>
議長	<p>前回の会議でシニア紙芝居も話題が出て大変好評だったということで、これも委員のご助言があったと聞いている。素晴らしい取り組みである。</p>
A委員	<p>紙芝居について、青少年育成推進委員会では委員の皆さんが絵を描き、話を収集するなどして沢山の自作の作品がある。先日芝川小学校で実施した読み聞かせは、その学校の地域にある“龍山院”というお寺の謂れについて、実際に住職から聞き取った昔話を収集して作った紙芝居を使用した。紙芝居というのはお芝居なので舞台が必要であるが、その紙芝居用の舞台もでき上がっており、木ででき</p>

A委員

た立派な舞台で少し重たいが舞台ごと持ち運んで実施した。芝川小学校では、10数人のチームができていて、そのチームで2時間目と3時間目に各学年に全員入り、2時間の授業のコマを使って読み聞かせをするという画期的な形態で実施している。

今日は上平北小学校でカスパーシアターをやってきたが、そこは読み聞かせは朝15分の時間に行っている。読み聞かせに行くと子どもたちはすごく喜んでいる。ここは図書館側が核となり学校側にアタックして行って欲しい。22校全部が同じ水準でなくても構わないので、何かしらの形で実施できると「読み聞かせのまち上尾」が実現する。音読に関しても、声を出すことはとてもいいことである。各学校色々なやり方でやってるが、他の学校が何をどのようにやってるかという横の情報はあまりないと思うので、そこを取りまとめて図書館で積極的に取りまとめて進めて欲しい。

F委員

自分は埼玉県環境アドバイザーとして任命されている一方、小学校の事務職員でもある。富士見小学校は校内に子どもの読書活動支援センターがあることから読書に力を入れている。また、中央小学校は図書館が近いということから読み聞かせに力を入れている。図書ボランティア、読み聞かせボランティアも若い保護者の方がたくさんいる。富士見小学校の方も、読み聞かせもあるし、職員が図書に対する意識が高くて、給食の時間に先生が推薦する本の読み聞かせをし、コロナ禍で子どもたちが黙食しながらその本を聞くというような取り組みがあった。学校はとても忙しく、時間を削れ、働き方改革だから早く退勤しろと言われ、先生方は効率化を求められている中、何を選び何にメスを入れるか、何を大切にすかの選択を迫らせている。本という選択肢を入れるためにも、図書館側からの学校に対するアクセスがとても重要だと思う。学校は地域と共にあると言われているので、先ほどあったようなその土地でしかない、その学校の地域にしかないお寺とか伝承・神話などは大切だなどと思う。ローカルという視点は環境に対してもいいことであり、何よりアピールすることが選ばれるきっかけになると思うので、図書館の積極的な働きかけに期待する。

以上